

## 第78回麻布獣医学会 一般講演6

## 犬にみられた水頭・脊髄空洞症の一例

山本 諭<sup>1</sup>, 野村 靖夫<sup>1</sup>, 茅沼 秀樹<sup>2</sup>, 宇根 有美<sup>1</sup><sup>1</sup>麻布大・病理, <sup>2</sup>麻布大・放射線

【症例】動物：犬, 種類：ミニチュアダックスフント,  
性別：雌, 年齢：9ヵ月齢(2002.6.26出生),  
体重：3kg

【臨床経過】生後4ヵ月頃より行動異常を呈し,  
6ヵ月齢頃には正常な歩行が困難になった。  
3月24日麻布大学付属病院に来院。  
X線検査により水頭症, 水脊髄症を疑い,  
視覚障害を確認。28日夜, 呼吸異常, 肺水腫  
様症状が現れ, 治療を施したが29日午前  
7時30分死亡, 剖検(死後1.5時間)。

## 【主要肉眼所見】

頭部はドーム状に変形。頸部～胸部にかけて脊柱が  
腹側に向かって極度に湾曲。

全身筋肉は発達不良で, 褪色気味。

胸腔臓器：肺；全葉が赤色～暗赤色で, 剖面から赤  
色粘液流出。心臓；右心膨大, 心筋褪色気味。

頭蓋骨：吻合は閉じていたが, 側頭骨は伸長, 非薄化  
脳：全脳室系(側脳室～第四脳室)が拡大, 大脳皮  
質は厚さ約2mm。中脳水道は開通を確認。左大  
脳半球の脳室側では脳実質が膜状に分離し, そ  
の一部は灰色に変色。嗅球の内部にまで同様の  
病変を形成。拡張した脳室の貯留液は滞赤色で  
あった。

脊髄：全長にわたり軽度膨大。馬尾近くは硬膜を透  
かして紫色に変色。脊髄を横断すると, 第6頸  
髄～第2腰髄にかけて内部に直径5mm程度の空  
洞を形成し, 脳室で認められた液体とほぼ同色  
の液体が貯留。

その他の臓器：著変無し。

## 【主要組織所見】

大脳：灰白質, 白質は高度菲白化。髄膜の炎症性変

化は無く, 脳室内面の上皮細胞内張りは欠如。  
脳室付近の白質内で出血, ヘモジデリン沈着。  
肉眼で膜状に分離していた部位は白質で, 出血,  
壊死が認められ脂肪顆粒細胞, 色素顆粒細胞存  
在。

脊髄：頸髄～胸髄；中心管は軽度に拡大。中心管と  
は別に背正中溝付近に大型空洞が形成され, 内  
壁に赤血球付着, 空洞周囲には膠細胞増殖, 出  
血, ヘモジデリン沈着。

腰髄でも同様の空洞がみられたが, 一部上位細胞で  
内張りされており, 中心管との交通を確認。仙  
髄中心管はほぼ正常大, 空洞無し, 仙髄周囲の  
結合織に出血高度, ヘモジデリン沈着。

胸腔臓器：肺；肺泡～気管支内に高度出血, 心臓；  
全域で心筋変性。

【病理学的診断】1. 内水頭症 2. 脊髄空洞症(交  
通性) 3. 出血性肺炎 4. 心筋変性

【考察】内水頭症は主に中脳水道狭窄が原因となる  
が, 本例では開通していた。他にキアリ奇形, ルシ  
ユカ孔及びマジヤンディ孔狭窄, 腫瘍, 炎症などが  
こうした病変を引き起こすとされているが, キアリ  
奇形や腫瘍は確認できなかった。中脳水道や第四  
脳室の拡大が認められたことからルシユカ孔及びマ  
ジヤンディ孔狭窄の可能性は否定できなかった。脊  
髄空洞症は原因としてキアリ奇形, ルシユカ孔及びマ  
ジヤンディ孔狭窄, 外傷などが挙げられているが本  
例では原因は確定出来なかった。脊髄空洞症により  
筋が萎縮した結果, 脊柱の湾曲が起こり, 呼吸障害  
が徐々に進み胸腔臓器の病変が発生したかもしれな  
い。原因の確定は出来なかったが, 犬においては過  
去に記載の乏しい症例と思われる。